

『杉森くんを殺すには』（作：長谷川 まりる 絵：おさつ）が

第62回 野間児童文芸賞を受賞！

株式会社くもん出版（代表取締役社長 泉田義則）が2023年9月に刊行した『杉森くんを殺すには』（作：長谷川まりる 絵：おさつ）が、すぐれた児童向け作品に贈られる第62回 野間児童文芸賞を受賞しました。

主人公・ヒロの再生の物語を通して、自分や近い人々の心の問題とどう関わっていくべきか考える機会を読者に提供する創作児童文学です。

■人の心の問題とどう関わっていくべきかを考えさせられる児童文学

“杉森くんを殺すことにした私は、とりあえずミトさんに報告の電話を入れた。”
衝撃的な一行目から始まる本作は、主人公が衝撃を受けたある出来事とそこからの立ち直りというテーマを、巧みな展開と軽やかな言葉で描いた物語です。読むことで「誰かの心の痛みだけでなく、自分の心の痛みについて考える」という体験をしたり、若い読者がやがて直面するかもしれない「心の痛みや悩みをどう解消するか」についてヒントを感じ取ったりすることができます。

また、「助けるのは大人の責任であること」「世界は生きるに値する場所であること」といった子どもたちに伝えたいメッセージも書きこんだ、広く読まれてほしい誠実な作品です。

■読者アンケートより

友人のすすめで読み、とても感動しました。詳しくは言えないけど、とにかくすごいから読んでみてほしいと言われ、前情報なしで読んでよかったです。いじめにあっている子が憎んでいる相手を殺したい、という話かと思いきや、次々と明らかになっていく真実と主人公の葛藤の描き方の上手さにページをめくる手が止まりませんでした。高校生の知人にプレゼントしたいと思います。（17歳 女性）

生きづらいティーンズたちをリアルに、丁寧に描く長谷川さんの作品を学校図書館員として追っています。今回はいつもよりさらに過激なタイトルで、どんな子が出てくるのかドキドキしながらページを進めました。不安定で歪な思考をもつヒロの事情と、その原因となった出来事を少しずつ消化していく過程が、丁寧に描かれています。心の不安定さがあまりにもリアルで読んでいると苦しくなってきましたが、共感すればするほど感情の処理の仕方を追体験できる貴重な作品でした。最後のページに相談できる施設や、作品などが紹介されている点も素晴らしいと思います。（43歳 女性）

主人公のヒロのような経験をした子どもにとっては救いの一冊になるでしょうし、大人が読んでも考えさせられる素晴らしい作品だと思います。多感な時期にこの本と出会えたかったです。（19歳 女性）

■書籍情報

『杉森くんを殺すには』

作：長谷川 まりる、絵：おさつ

対象：中学生以上

判型・ページ数：四六判・208ページ

ISBN:9784774334837



作:長谷川まりる

長野県生まれ、東京都育ち。『お絵かき禁止の国』で第59回講談社児童文学新人賞佳作を受賞、同作で講談社よりデビュー。『かすみ川の人魚』(講談社)で第55回日本児童文学者協会新人賞受賞。その他の作品に『満天 in サマラファーム』(講談社)がある。

絵:おさつ

イラストレーター。装画を手がけた作品に『がんばらないことをがんばるって決めた。』(考えるOL 著/KADOKAWA)、『ルビィ』(重松清 著/講談社)などがある。

株式会社くもん出版(担当:内木 TEL:080-3506-0510)
〒141-8488 東京都品川区東五反田2-10-2 東五反田スクエア11F
メールアドレス:kouhou@kumonshuppan.com
くもん出版サイト:<https://www.kumonshuppan.com/>